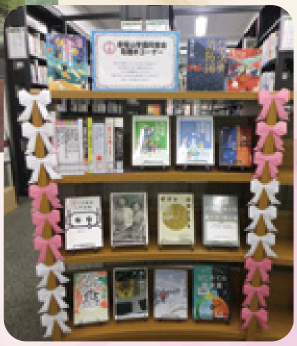
T-time

帝塚山学園広報誌

Vol.16
2023/Dec.
令和5年12月15日発行

帝塚山大学・帝塚山高等学校・帝塚山中学校・帝塚山小学校・帝塚山幼稚園



帝塚山幼稚園・小学校　70年の歴史を礎に　新しいステージへ

　昭和26年12月、帝塚山学園創立10周年記念式典が挙行され、学園創立10周年の記念事業として、幼稚園及び小学校を設置することが発表されました。翌年の開園式・開校式では、山本藤助初代理事長が、「幼稚園と小学校の開設で、理想とする一貫教育ができるようになった。帝塚山教育の経験をもとに、園児・児童の良い個性を伸ばして、優秀な社会人を育てたいと念願している」と挨拶。

　昨年、創立70周年を迎え、創立時の想いを引き継ぎながら、また時代の変化に応じて、個性を尊重した教育を展開しています。

1941/昭和16年　帝塚山学園創立

1952/昭和27年　幼 小

幼稚園・小学校開設。秋には幼・小・中高合同で、幼稚園・小学校開設記念第10回大運動会を開催し、産業経済新聞で紹介されました。

1955/昭和30年　小

第1回臨海学舎を開始、天の橋立へ。昭和33年からは、林間学舎(長野県大町)も開始し、ともに現在まで続く伝統行事に。

1959/昭和34年　幼 小

小学校の全学年に週1時間の英語教育を開始。また、第1回幼小合同バザーを開催しました。

1964/昭和39年　小

近鉄「学園前駅」の正面に新校舎が完成。昭和48年には学園創立30周年を記念して屋上が「空中運動場」となる体育館も増設されました。

1977/昭和52年　幼

自然との触れ合いを考慮した現在の園舎が完成。宿泊林間保育も始まりました。

1996/平成8年　小

内装に檜の無垢材を使用し、最新の機器や機材を設置した新校舎完成。翌年には「スタジオてづかやま」が開局、児童機関紙『まつぼっくり』が発行されました。

2000/平成12年　幼

「絵本の部屋」を開設。日本語の絵本だけでなく外国語の絵本や図鑑、仕掛け絵本や大型絵本などあらゆる本を所蔵し、毎年増やしながら現在に至っています。

2004/平成16年　小

全学年で英語の授業を週2時間に。英語での日本文化の発信や海外の小学校と交流も行い、翌年、文部科学省の教育改革推進モデル校に指定されました。

2006/平成18年　幼

県内初の2歳児教育がスタート。

2015/平成27年　小

県内初のプログラミング授業を開始。翌年には、ロボットを使ったプログラミング授業を始め、WRO全国大会にも出場しました。

2016/平成28年　幼

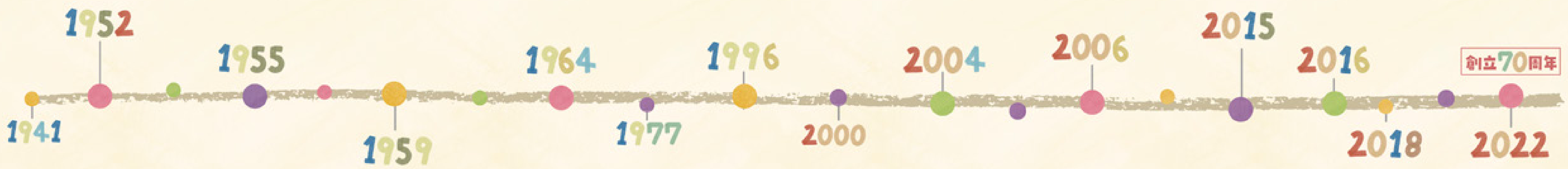
大学・食物栄養学科による食育指導がスタート。また、小学校のプログラミング必修化に先駆け「親子教室」でプログラミング体験も開始。

2018/平成30年　小

「眠育」への取り組みとして「シエスタ(お昼寝タイム)」を導入。

2022/令和4年　幼

帝塚山大学心理学部と連携し、キンダーカウンセリング事業を開始。



幼稚園

昭和27年	帝塚山幼稚園開設。106人(1年保育41人、2年保育65人)の園児を迎える
昭和35年	制服スタート
昭和36年	新園舎(円形校舎)へ移転
昭和42年	「幼稚園の自然と小学校の理科の結びつき方」をテーマに、幼小合同研究協議会を開催。関西初の試みで、今後の幼小の連携という教育課題に一石を投じる
昭和51年	クラブ活動(音楽・英語・絵画・創作ダンス・剣道・お茶・お華)が始まる
昭和52年	自然との触れ合いを考慮した独立園舎が完成。宿泊林間保育も始まる
昭和58年	育友会による文集『つくしんぼ』発刊
昭和60年	育友会OBを中心とした「つくし会」発足
平成6年	つくし会によるタイムカプセル事業(20歳の時に開封)開始
平成12年	「絵本の部屋」を開設。日本語の絵本だけでなく外国語の絵本や図鑑、仕掛け絵本や大型絵本などあらゆる本を所蔵し、毎年増やしながら現在に至る
平成13年	年中・年長組　礼法の時間を開始
平成14年	完全週5日制となり、土曜日は行事や「親子教室」の開催日に。「親子教室」では帝塚山小学校や高校の先生によるプログラムも始まる
平成16年	音読の時間を開始。音読集「ほんすきになあれ」を発刊し、全園児に配付。また、平城京遷都祭天平行列に年長組が参加
平成17年	園舎の増築・園庭の整備に伴い、ひょうたん型の砂場、観察池が完成。園庭全面が砂になり、翌年度からは「素足サーキット」を導入し、身体能力の向上を図る
平成18年	県内初の2歳児教育がスタート
平成20年	第1回タイムカプセル開封式・20歳お祝いの会を開催(以後毎年3月に開催)
平成28年	大学・食物栄養学科による食育指導がスタート。また、小学校のプログラミング必修化に先駆け「親子教室」でプログラミング体験も開始
令和2年	苗づくりから収穫までの一連を体験する年長組のお米プロジェクトを開始
令和4年	帝塚山大学心理学部と連携し、キンダーカウンセリング事業を開始

小学校

昭和27年	帝塚山小学校開始。各方面からの強い要望により1年早めて開校し、22人が入学
昭和30年	第1回臨海学舎を開設、天の橋立へ。昭和33年からは、林間学舎(長野県大町市)も開始し、ともに現在まで続く伝統行事に
昭和34年	全学年に週1時間の英語教育を開始。また、第1回幼小合同バザーを開催
昭和39年	学園前駅の正面に新校舎が完成。昭和48年には学園創立30周年を記念して屋上が「空中運動場」となる体育館も増設される
昭和44年	育友会による機関誌『てつかやま』を発刊
昭和45年	スキー教室始まる
昭和46年	「もちつき」始まる
昭和55年	愛称歌「帝塚山の子」、「てづかやま体操」ができる
昭和59年	韓国・慶熙国民学校と姉妹校提携
平成8年	内装に檜の無垢材を使用し、最新の機器や機材を設置した新校舎完成。翌年には「スタジオてづかやま」が開局、児童機関紙『まつぼっくり』を発行
平成10年	オーストラリア・メルボルン語学研修始まる
平成14年	学校給食開始
平成15年	英語スピーチコンテスト、「土曜自然教室」始まる
平成16年	全学年で英語の授業を週2時間に。英語で狂言や茶道などの日本文化を発信するほか海外の小学校と交流も行い、翌年、文部科学省の教育改革推進モデル校に指定される
平成17年	算数・英語の少人数指導が始まる
平成27年	県内初のプログラミング授業を開始。翌年には、ロボットを使ったプログラミング授業を始め、WRO全国大会にも出場。また、3・4年生を対象に英語短期集中プログラム(国内留学)を開始。
平成30年	「眠育」への取り組みとして「シエスタ(お昼寝タイム)」を導入
令和2年	ニュージーランドとのオンラインホームステイを3・4・5年生で実施

(出典：『帝塚山学園七十年史』ほか)

T-time
Vol.16

CONTENTS

03　SPECIAL TALK　幼稚園創立70周年特別企画
教員×卒園生座談
「自然と触れ合い育つ豊かな心」
05　SPECIAL TALK　小学校創立70周年特別企画
教員×卒業生座談
「小学校6年間の思い出を語る」
07　活躍する卒業生 T-voice
医師として、伝統工芸作家として活躍
大塩博子さん
09　TOPICS 大学
心理学部学生による不登校・いじめ予防支援プログラムが本格始動
第59回大学祭「虹色祭」を開催
奈良の魅力を発信　東大寺開山良弁僧正1250年御遠忌法要の設営の様子を記録
奈良県の戦争遺跡を辿り、平和について考える
「柿ソース」で柿の消費量アップを目指す
11　TOPICS 中学校・高等学校
Bem-vindo！／地球の裏からこんにちは！
ブラジル・アルモニア学園高校生との交流会を企画
奈良県高校生議会に参加 県政策について提案
奈良県代表としてICT教育について発表
医師として命にかかわることの怖さに向き合う
13　TOPICS 小学校
AIを正しく使いこなす力を身につけ、卒業研究の完成を目指す
子どもたちによる子どもたちのイベント「TEZ'Fes2023」を開催
今年から6年生も実施 国内留学で英語力をステップアップ
コーラス部が学外で活躍！
クリスマスイベント&1万人の第九に参加
15　TOPICS 幼稚園
「心のバリアフリー」で思いやりの心を育む
幼稚園生活初めてのお泊り保育
豊かな自然の中で自立心を培う
みんなでつくる夏の思い出。
笑顔はじける「てづキッズまつり」！
年長組お米プロジェクト　稲刈りを行いました
17　活躍する帝塚山生
19　教育連携
20　同窓会だより
21　Information

帝塚山学園記念コーナー特別展示のご案内

令和6年1月10日より、学園記念コーナー(学園前キャンパス16号館2階)にて、幼稚園・小学校の歴史を振り返る企画展示を行います。

UD FONT

幼稚園創立70周年特別企画 自然と触れ合い育つ豊かな心

教員×卒園生座談

「根っこ」を育てるとは

小林　帝塚山幼稚園の「根っこを育てる」教育は、鉢植えから植物を育てるのと同じだと思うんです。植物を育てる時に長い間鉢に入れてしまうと、根が下に伸びずに鉢の周りに巻いて、栄養が取れず、根の量が多いのに下に伸びないから苗がぐらつい たり、時間がたっても中々伸びない根っこもあるように、幼児期の教育も同じだと。幼稚園という型の中で、愛情を注いで社会のルールやマナーを時には厳しく教えながら、成長してきたと思ったら新しいことを教えたり、逆にまだまだだなと思ったら、もう少し待ってみる。そういう教育方針をされてるなと。

先日の運動会のかけっこでも子どもたちは、先生に向かって走っていって、先生も笑顔で迎えられていて。信頼関係がすごく強いんだなと。「根っこを育てる」とはそういうことだと思います。私も年長の時よく悪さをして田中淑子先生（当時園長補佐）に叱られて、「もう今日は幼稚園に行きたくない。お母さんの言うことを何でも聞くから幼稚園だけは」って言うも、引きずられながら幼稚園に行っていたこともありました。厳しくて怖かったけれども、大人になると、叱られたことは愛情だなと思います。

塚本　怖い、厳しいって思っていても、それが笑って話せる思い出になっていることが嬉しいですね。ただ叱っているわけじゃなくて、ちゃんと意味があったのだと、大きくなったら伝わっているわけですし、保護者の方はわかってくださっているので、引きずってでも送り出してくださっていたんだと。でも、小林さんの子どもの頃って、叱られていたイメージはないですよ。

伊倉　一番印象に残っているのは、仲良しのお友達と3人でお片付けの時に抜群の連携プレーを見せてくれていた姿。色々な形の積み木があって、その組合せを間違えるとでこぼこになってしまうんですけど、片付けのコツを教えると、3人が率先してやってくれていた。おかげでみんなすごい片付けが上手になって。

塚本　私の印象はすごく真面目で何でも一生懸命。だから、泣く時はものすごく泣くし。

伊倉　3人とも泣き虫で何か怒ったかなっていうぐらいのことでも涙を浮かべていたり。とても感受性豊かでしたね。

小林　すごく情緒や発想力を鍛えていただいて、認めていただいていたと思います。年長で読み聞かせでよく読んでいただいた『バンビ』の場面を描く時に猟師の鉄砲を描いたのですが、一発しか狙えなかったらもったいないから、前と後ろに銃口がある銃を描いたんです。そしたら田中先生が、「良い発想だね。でも後ろだと弾が一緒に出なかったらすぐ狙えないけどどうする?」と。その時に、そうか、ただ前と後ろにあるだけでは駄目なんだと気づき、そこから先生との会話を重ねながら色々考えて。この経験が自分なりに発想することや想像する姿勢の原点になった。銃口が前と後ろ二つあっていいなではなくて、問いを投げ掛けられて、どうしたらいいか考え、回答を待ってもらえた経験は大きかったですし、卒園生の方を見てても発想力や想像力が豊かな方が多くいらっしゃるなと思います。

自然と触れ合い感性を磨く

小林　学園内や学外で自然に触れて、特に生き物に触れることをすごく大事にされていると感じています。数年前の『園長だより』にも、どんぐりを見て、本来生がないものに対して、自分達で生を与えて物語を作ったり、人格を与えることが人の気持ちを理解する練習になっていると書かれていて、やっぱりそれはすごく大事だなと。人形ではなくて、自然にあるもので色々なごっこ遊びをすると、バッタやトンボに人格を与え、トンボという括りの中でも大きいもの小さいものがあったり、カエルでも種類があることを知ることで、人間以外の生き物や他者への思いやりを育み、人との関わり方を理論理屈ではなく、まず体験から知ることができる。自然との触れ合いから、人間関係や情緒を学んでいるので、何か説明をした時も素直に受け入れられていると思います。

塚本　私も帝塚山幼稚園の出身で、また70年の歴史のうち半分ぐらいの年数を帝塚山幼稚園で勤めていますが、自然と関わって遊ぶことで色々学んでいく教育方針は、ずっと変わっていません。時代の変化とともに伸ばしていかないといけない部分は増えましたが、一番は情緒という心の部分を豊かに持ってほしいと思っています。覚えてなくても体に残ってくれたらいいなと我々は思うので、色々体験させたり、経験を積ませて、自然の四季を題材に感性を磨き、身近なところからの気づきや喜びを蓄えてほしいなと。これが心の成長になって、相手の気持ちに寄り添い、こんな考えをする人も受け入れようという気持ちが芽生えてくるので、ここは本当に大事にしたいところですね。

今年新たな試みとして、高齢者施設に行かせていただきましたが、子どもたちの姿に非常に感動しました。自分達のおじいちゃんおばあちゃんよりまだ一世代上の初めて会った方々に、歌を歌ったり肩を叩いたりする中で、子どもたちの優しさが随所に見られて。子どもたちの反応も面白くて、高齢者施設に行ったことを聞くと、「来年年中さん絶対行ったらいいと思う。次の子たち、ぜひ行って」と言ってくれる。小さいながらに子どもたち同士も気持ちが繋がっていて、今までやってきたことの実りが見え、かなり嬉しく思います。時代に沿って新しく取り組み始めた行事の一つですが、根底にあるものはやっぱり一緒だと思います。

小林　今の話を聞いていても、伝統というのはすごく難しいと思うんです。私の仕事でも、伝統というのは形を残すものではなく、その思いを理解して、その意思を引き継いでいくことだといわれています。例えば、歌舞伎でも、あのままのことをずっとやっていたらきっと先はないけれども、スーパー歌舞伎で新しいことにチャレンジして、人に喜んでもらっていて。そういうことが、伝統が残っていくかどうかの分水嶺じゃないかな。花火大会も、幼稚園の一大イベントになっていましたけれども、コロナの影響等もあり、今年は「てづキッズまつり」を充実させました。幼稚園をお祭り会場にすることで、幼稚園が苦手な子も幼稚園の楽しさに気づくきっかけになればと、役員の皆さんが色々発案してくださって。見え方でこんなに違うという気づきにもなりますし、過去の行事にこだわらずに創意工夫をすることで新しい感動を生み、それが伝統をつないでいくことにもなっている。

塚本　今年の「てづキッズまつり」は、本当に盛り上がりました。育友会の活動は子どもを思う保護者の方の愛情が伝わってきて、いつもありがたいと思っています。世間ではPTA活動は難しいと言われていますが、幼稚園、小学校みたいな小さい子どもの集まりは、保護者の方の支えもないと成り立ちません。帝塚山は育友会がすごく大きな力で支えてくださっているから、本当に成り立っていて。今年の運動会も、4年ぶりに通常の運営になりましたが、おかげで盛会に終わることができました。

小林　運動会では、学園章のまつぼっくりに絡めて、松の話をさせていただきました。例えばかけっこが速いとか力が強いっていうだけじゃなくて、みんな色々良いところがあって、誰と競うんじゃなくて、まずそれぞれの良いところを保護者も含めて見つけていってほしい。松の木は、大きさも様々で、幹も上を向いていたり下を向いていたりしますが、天然記念物になるような松や海風から人を守る松、人を楽しませてくれる松などそれぞれで価値を発揮している。子どもはいろんな可能性を秘めていて、褒めてもらって認めてもらうことでその可能性が開かれます。私の『バンビ』の思い出がそうだったように、言葉一つかもしれませんけれども、それを子どもは支えにして、誰かに褒めてもらえた、認めてもらえたと思うから、自分を信じて歩んでいける。

塚本　帝塚山幼稚園を選んでよかったと思っていただけるよう保護者の方とも信頼関係を築きながら、伝統をつないでいきたいですね。

interlocutor 小林　弘明さん
帝塚山幼稚園第39回卒園生（平成2年度卒園）
帝塚山幼稚園育友会会長
コロナ禍で柔軟な対応が求められた令和2年度から、育友会会長として幼稚園教育にお力添えいただいています。

大好きだった『バンビ』の本を手に思い出を振り返る。今も思い出を交えながら、自身の子どもに「読み聞かせ」をされているそう。

塚本　真紀 第10代園長
（当時年中組担任）

伊倉　明美 園長補佐
（当時年少組担任）

小学校創立70周年特別企画

小学校6年間の思い出を語る

教員×卒業生座談

吉田さんには5年生を対象とした「租税教室」の講師を務めていただいています。子どもたちをみて、柔軟な姿勢を生かして成長してくれればとエールを送ってくださいました。

interlocutor 吉田 睦（むつみ）さん
帝塚山小学校第44期生（平成12年度卒業）
株式会社大和農園ホールディングス
株式会社大和農園　代表取締役社長
柔軟な発想や多様性を重んじる同社の経営方針は、小学校の学びが生かされているそう。この夏、日本初の赤いトウモロコシ「大和ルージュ」が話題に。

行事を通じて、大きく成長した6年間。

吉田　小学校では、全力で様々な行事に向き合っていたことを覚えています。例えば運動会の四色対抗リレーは、一喜一憂しながら本当に全力でした。

服部　その当時の我々の思いとしては、もちろん授業は一番大事なことだけれど、行事を通して子どもたちを育てていくことが教師全員の共通認識でしたね。行事を一つ乗り越えるごとに何か子どもたちが成長していく姿を願って取り組んでいて、運動会も教師も当時から必死でやっていた。

吉田　先生たちも一緒になって行事に取り組んでくださっていたので、叱っていただいたり褒めていただいたり、距離が近い関係性でいてくださったことは子どもながらに感じていました。濃い6年間の衣食住を一緒に過ごしたこともあって、何かあった時には今でも小学校の友達に連絡をするのですが、帝塚山小学校卒の姉二人も当時の友達と連絡を取っています。なんかそれが不思議だねって家でも話をするんですけれど、6年間が充実していたからだと思います。

清水　吉田さんが小学校にいた頃は、特に個性豊かな子どもたちが多かった。だから一つの行事をするにも、一人ひとりやっぱり違う思いもあって、こだわりが強いというか。また先生たちのカラーも強かったのが帝塚山の当時からの特色だった。子どもたちもすごく個性が強かったから、それぞれの個性を伸ばしてあげるっていうことを本当に一生懸命大事にして。

服部　今だから言えるけど、先生同士も言い合いになることがあった。やっぱり考えが違うからね。

吉田　本当に一人ひとりみんな面白くて個性豊かな子が多かったですよね。

清水　そしてそれをみんなが認めてあげていた。

吉田　勉強ができる子、スポーツができる子もいれば、芸術の方が得意な子もいて。でも僻むのではなく、この子はこれが得意だから教えてもらおうとか、なんか持ちつ持たれつっていうそういう環境で。それが当たり前だったので、私達はそういうことを知らぬ間に勉強させてもらったのだとすごく今となって感じます。色々な人がいることが当たり前で、それこそ私達一人ひとりの個性や強みを先生方が引き伸ばしてくださっていた。そのことが社会人になって、よかったと感じる卒業生の方は多いんじゃないでしょうか。

服部　吉田さんの小学校時代で私の印象に残っているのは、リーダーシップを発揮して、みんなの前で声を出して何かやっている姿。だから会社を継いでいることを聞いた時、意外じゃなかった。小学校時代と思い比べて、吉田さんなら会社を切り盛りできると。

清水　会社を継ぐ気持ちが、小さい時からあったの？

吉田　全くなかったです。ただ、大学で商業簿記を学んだ時に、数字と向き合うことが楽しく、税理士か公認会計士になって父の会社のサポートができたらと勉強していたら、紆余曲折もあって気づいたら社長になっていたという感じです。

私が会社経営で心がけていることは、スタッフの個性を認めることで、小学校で先生方がしてくださっていたことと同じことをしていると思います。うちのスタッフたちは個性豊かで、めちゃくちゃキャラが濃いんですけど、でもこの人とこの人を組み合わせると面白いものが生まれるなって。一人ひとりの強みを見極めてチームを作って、どんどん走らせるということをしています。小学校で経験したことが今の仕事に繋がって生きていると思います。

服部　我々が大切にしている一人ひとりの個性を大事にして根っこを鍛える部分を、今の仕事に生かしてくれているというのを聞くと、すごく嬉しいですね。

野村　世間でもよく「生きる力」について言われていますが、それは「自分自身が生きていく力」ということ。人はやっぱり一人では生きていけないので、周りと協力して、場合によっては人の意見を参考にしながら生きていかなければならない。生きていく上では色々な経験を積んでいくことが大切ですので帝塚山小学校では吉田さんの頃もそうだったように行事を重視しています。

今でも運動会のプログラムに四色応援合戦があって、6年生が団長をしています。先日、在校生のお母さんとお話する機会があって、たまたま児童の応援席の横にいて、6年生の団長が中心になって、5年生以下色ごとに集めて話をしているのを聞いて涙が出たそうで。「自分たちがやってきたことのバトンを渡すから、次頑張って」ということを言っていたみたいなんですね。運動会までの限られた時間を通じて、子どもたちが周りと協力しながら、一つのことをやり遂げ、そしてそれを自分たちで次に伝えていく。こういったことが本当に大事だなって思います。

本校では、「本物に触れる」ことを大切にしていますが、「本物に触れる」には、体験しなければなりません。今は、情報技術が発達しているので、何でも映像や写真で見ることはできるし、情報を集めることはできます。でも、そこで「何を感じるか」というのは、現地で実物に触れないとできない。だから今も林間学舎で山に行って雪遊びを経験したり、臨海学舎で夏の自然に触れ、普段の家族では、できないようなことも取り入れています。そこから何かを感じてほしい。その積み重ねが、自分の生きる道を探すことであり、友達同士協力することへの気づきとなって、子どもたち同士の繋がりが行事でのパワーになります。それがよく表れるのが運動会や学習発表会じゃないかと。

野村 至弘 第11代校長

吉田　私達の運動会の時もそんなことがありました。団長を中心に上の学年が引っ張ってくれて、何かあるたびに色々と話をしてくれるんです。その姿を見て私達も6年生になった時には下の子たちを引っ張っていってあげないといけないと、無意識に役割をちゃんと認識していた。迷った時は先生方にお伺いに行っていたけれど、自由に好きなように自分たちのカラーでやりなさいと応援してくれて。だから赤白青黄それぞれのカラーがあるんじゃないでしょうか。自分たちで作り上げるにはどうしたらいいんだろうと、学年を越えて月組星組で集まって練習していました。今でもそれが続いているんですね。

野村　四色対抗は良い伝統だと思います。コロナ禍で、全体でまとまってできない状況が数年続きましたが、久しぶりに全学年が揃って応援合戦をして、やっぱりいいなと改めて思いました。運動会の練習を含めた数週間の取り組みで、6年生は本当に立派になった。1年生はやっぱり一皮むけたかな。小学生になってくれたなっていう気がします。

清水　今年久しぶりに、コロナ前の状況に戻ってきて、改めて感じたね。子どもたちの成長にはこういうことがやっぱり大事だということが強調されたというか。

野村　四色対抗のように伝統を引き継いでいるものもあれば、少しずつ内容を変えていっているものもあります。

ここ数年臨海学舎に行けなかったこともあり、伝統的に実施していた遠泳は他の内容に変更しました。遠泳を泳ぎ切った経験は大きな自信になるけれども、コロナ禍で子どもの体力が低下していることや安全面をふまえ、年齢に応じた学びの充実を図りました。環境や自然、海辺の産業について現地で学ぶ機会を増やしています。70年ずっと大事にして変えていないものもあるし、時代に合わせて変えていくものは変えていく。柔軟に対応しながら、次の時代を担う子どもたちを育てていきたいですね。

清水 正志 教頭（当時課外活動顧問）

服部 功 先生（4～6年時担任）

活躍する卒業生 T-voice

医師として、伝統工芸作家として活躍

大塩博子さん

帝塚山幼稚園 44 回生・帝塚山小学校 45 期生

Profile

おおしお　ひろこ／東京大学理科三類（医学部）卒業後、東京大学医学部附属病院での研修を経て、JR 東京総合病院にて循環器内科医として勤務。大学を卒業した平成 25 年からは、奈良の伝統工芸の一つ、赤膚焼「昭山窯」の後継者として、作家としても本格的に活動を開始。近年は、作陶だけでなく赤膚焼の歴史について講演をされるなど、活躍の幅を広げている。

「幼稚園、小学校の頃から大きくなったら五代目大塩昭山になると言っていました。幼稚園の卒園ビデオでみんながお花屋さんやパイロットなどと答える中、将来の夢の返答が私だけ浮いていたと朧げに記憶しています。」

そう幼少期を振り返るのは、循環器内科医として都内の総合病院に勤務しながら、赤膚焼の作家としても活躍する大塩博子さん。

帝塚山幼稚園・小学校卒業後は、東京芸術大学への進学を視野に入れていたことから、内部進学をするか外部の学校へ進学するか悩むも、「気にせずやりたいことをやればよい」との当時の校長の言葉を胸に、大阪府内の中学校・高等学校へ。高校生の時に流行った映画「ダ・ヴィンチ・コード」を見て、表象文化論に興味をもったことから東京大学を目指すように。理系科目が得意だったこともあり、脳科学や生物学を通じて芸術を科学的に分析できればと、医学部に進学した。

伝統を引き継ぎながら自分なりの作品を作りたいという気持ちが強く、学生時代から多くの作品を作られており、学業の合間をぬって帰省し、父や兄弟子の背中を見ながら、試行錯誤をしていたそう。卒業してからは、一人前の医師を目指して研修に励む傍ら、作家としても本格的に活動を始め、平成27年の大阪・大丸百貨店での「親子展」を皮切りに、日本橋三越本店での4代目大塩昭山還暦展など、定期的に都内や近畿圏の百貨店に出展している。

「赤膚焼といえば、「奈良絵」を思い浮かべられる方が多いと思います。上絵をつけている他の焼物も沢山ありますが、当窯は登り窯を焚いて、釉薬（ゆうやく）の色合いが変わった、窯変（ようへん）した茶碗にも「奈良絵」を描いているのが一番独特なところ。窯変は、窯焚きで釉（うわぐすり）の酸化還元反応がどれくらい起こるかで変わりますが、どの温度で、どれくらいの薪をくべればどう変わるのかは未知なので、自然のなすがままとも言えます。薪を沢山使うほど還元反応が強く出るので、途中で雨が降った時の窯は、いろんな色合いが出ます。以前、天目茶碗の写しのぐい呑みを作った時に、美しいピンク色の窯変が出た時があって。狙った以上の綺麗な窯変が出ると嬉しいですね。」と、赤膚焼の魅力について語る。

すわりんぐぐい呑み／酒器　酒注、杯（大・中・小）
日本酒の香りとまろやかな味を楽しむことができる。収納スペースが少なくてもよいように重ねて収納できることも特徴の一つ。

博子さんは、多種多様な作品を作られているが、使い手に寄り添った酒器が特に魅力的だ。お酒が趣味なこともあり、酒器を作るために、ワインエキスパート・エクセレンス（旧シニアワインエキスパート）やSAKE Diploma（一般社団法人日本ソムリエ協会認定）を取得。令和2年作の「すわりんぐぐい呑み」（写真右上）は、この時の経験から生まれた。

「日本酒は香り豊かなものが多いですが、香りを楽しもうとワイングラスで飲むと、量が多くなってしまう。日本酒は少しずつ飲みたいけれど、ぐい呑みだと香りが取りづらい。であれば、ワイングラスのようにスワリングしやすいぐい呑みを自分で作ろうと思って。下部に膨らみをもたせたことで、香りを楽しみやすく、飲み口を平皿のようにしたことで液体が流れる時に広がって口に入るので、空気に触れる面積が大きく、優しい味わいになります。」

激務と言われる医師と作家の両立の秘訣について尋ねると、「それぞれに常に自分が目標とする人が身近にいたことが大きい」とのこと。「周囲のサポートにも支えられていますが、身近に憧れの人がいることで、その人に近づく努力が自然とできるので。また、医師と作家という全く異なる分野だからこそ、自分自身の切り替えもでき、それぞれに力を注ぐこともできるのかなと思います。」

令和7年3月の日本橋三越本店での個展に向けて目下作品作りに励んでいるという博子さん。今後の目標は、「医師としてはまず患者さんの健康にとって益となること、作家としては、使い手にデザイン性だけではなく機能性、利便性にも納得してもらえる作品を作っていきたいと思っています。伝統も残しつつ、若い世代の方にも積極的に興味を持ってもらえるような作品を考えていきたいですね。」

ワイングラス
乳白色の地に彩鮮やかな奈良絵が描かれたフット・プレートが美しい。

MESSAGE

帝塚山幼稚園、小学校時代を振り返ると、体験型の授業や文化的なイベントがとても多かったと記憶しています。幼少期に色々な経験をすることで、自分の得意分野や長所を伸ばすきっかけになりました。また、人と付き合っていく上で必要な教養の土台ができたように思います。

グローバル化した今の時代、私が小さかった頃からさらに垣根がなくなり、日本の社会の中だけでなく欧米、アジア、さまざまな人と接する機会が増えていると感じます。ただただ勉強するだけでなく、いわゆる教養というものの大事さを感じるようになりました。様々なものに触れて知見を増やすことでまた別の新しいものへの興味を持つきっかけになったり、コミュニケーションの役に立ったりすると感じます。子どもたちがはまっている漫画やアニメ、ゲームだって背景知識を調べれば化学や物理、歴史などの勉強にも広がっていきます。好奇心をどんどん育て、たくさんの行事、様々な機会を通して、知識を深め、いろんな分野で活躍してくれる方たちが育ってほしいなと思います。

10.10 奈良の魅力を発信 東大寺開山良弁僧正1250年御遠忌法要の設営の様子を記録

文学部・人文科学研究科では、昨年度から東大寺や春日大社の行祭事の設営を担う株式会社尾田組と連携し、奈良の代表的な伝統行事を撮影、同社の Instagram を通じて発信しています。10 月 10 日は、東大寺開山良弁僧正 1250 年御遠忌法要のため、尾田組の方が春日大社から鼉太鼓を運び、大仏殿前に設置される様子を撮影させていただきました。

春日大社のおん祭りで使用される鼉太鼓が東大寺の法要で用いられるのは十数年ぶり。「設営されるこの瞬間を自分の目で見て記録に残したいと思ったー」。そう言いながら、細心の注意を払って行われる一連の作業の様子をカメラに収める学生たち。尾田組との連携を機に学生たちは写真部を立ち上げ、奈良の文化財等を積極的に発信しています。写真部部長で奈良出身の大島颯斗さんは、「活動を通じて、身近すぎて今まで気が付かなかった奈良の魅力に気づくきっかけになった。奈良の人にも奈良の良さを実感してもらえるものを発信したい」と意気込みを語ってくれました。

帝塚山学園同窓会役員の株式会社尾田組の尾田安信社長のご厚意で始まった写真プロジェクト。この経緯はT -time14 号の卒業生紹介「T-voice」(P3) でもご覧いただけます。

授業のデモの様子。アイスブレイクでじゃんけんゲームを取り入れる

11.22 心理学部学生による 不登校・いじめ予防支援プログラムが本格始動

昨年の「県内大学生が創る奈良の未来事業」で最優秀賞を受賞した心理学部の「子どもたちの心の健康をサポートする～心理教育アプローチの活用～」が奈良県で事業化され、奈良県立教育研究所と共同で、不登校やいじめなどの未然防止を目的とした「心理教育を活用した予防的支援事業」として始動しています。この取組みには、同学部有志の学生約30名が参加し、臨床心理学を専門とする中地展生教授と山口祐子教授の指導のもと、県内小学校5校にヒヤリングを行い、各校の状況に応じたプログラムを考案。小学校教員へのリハーサルや外部講師の指導も受けて練り上げた各プログラムを、10月以降各小学校で実践しています。

11月22日は、12月に実施するプログラムについて、外部講師も交えた研修が行われました。今回のテーマは、アンガーマネジメント。授業のデモを行い、小学生にわかりやすい授業の展開の仕方やグループワークについて指導を受けました。今回のリーダーを務める福間愛那さん（4年）は、「感情のコントロールについて、子どもにわかりやすく伝えることは難しいが、教育現場でも必要とされているテーマなので頑張ってまとめたい」と意気込みを語ってくれました。各小学校での実践については、2月に開催するシンポジウムで広く県民に対して報告し、シンポジストとともに不登校やいじめの予防支援に関する最新の知見として意見交換を行います。

10.28 11.4 奈良県の戦争遺跡を辿り、平和について考える

平和学・国際法を専門とする法学部末吉洋文教授のゼミでは、令和 2 年に奈良県内の戦争遺跡に関する調査報告書「奈良県の戦争遺跡：忘れてはいけない歴史」を発行し、本調査を経て知った身近な戦争遺跡を平和学習に活用してもらおうと、翌年度から奈良県内の戦争遺跡を訪ねるフィールドワークを行っています。10 月 28 日は、奈良県立国際中学校・高等学校と合同で五條市内の戦争遺跡をたどるフィールドワークを実施しました。学童疎開を受け入れた「櫻井寺」、空襲の被害を受けた「大川橋」、太平洋戦争の影響で建設が中止された「旧国鉄五新線（未成線）鉄道構造群」、平和の鐘を鳴らす寺として有名な「生蓮寺」等を訪れ、ゼミ生たちは、各戦争遺跡について説明しました。

11 月 4 日には、末吉教授による今年度の活動の総まとめが行われ、「日本で戦争というと広島、長崎、沖縄がすぐに話題に上がるが、もっと身近なところにも戦争はあったことに気づき、そのことに意識を向けることが平和へのより深い理解につながる」と説きました。末吉ゼミの活動は県外でも注目され、大阪府豊中市の小中学校と一緒に豊中市内の戦跡について調べるなど広がりを見せています。

旧国鉄五新線（未成線）鉄道構造群にて

11.3 「柿ソース」で 柿の消費量アップを目指す

食品加工学を専門とする現代生活学部食物栄養学科藤村太一郎教授のゼミでは、奈良の特産品の一つである柿が生産量の 3 分の 1 程廃棄されていることに着目し、柿を活用した商品開発に取り組んでいます。昨年からは石井物産株式会社と共同で、汎用性が高い「柿ソース」を開発。スイーツをはじめ様々な食品に組み合わせやすいよう研究を重ね、レシピ提供もしています。

今年は 10 月から約 2 ヶ月、大和郡山城内の番屋カフェ協力のもと、「柿ソース」を使った「ペンネ柿ポリタン」と「柿の葉シフォン～柿ソース添え～」を販売。11 月 3 日の大和郡山城親子まつりでは、学生もカフェ前でシフォンケーキを販売し、アピールしました。またこの他にも、五條市の子ども食堂のイベントで、柿ソースを使った学生考案のレシピでニョッキづくりを行う予定です。

研究を振り返り、「配合バランスが一番難しかった」と語るのは、谷本真里奈さん。「柿ソース」の美味しさを可視化する官能評価では、柿の風味を残しながら甘みや旨みを足してバランスを取るために、様々な野菜や果物を加えて試行錯誤したそう。今年の柿ソースは、色味と甘みの強いリコピンニンジンを加えることで、赤みと甘みを調整しているのがポイント。藤村ゼミでは、「柿ソース」の更なる改良と商業施設などでの業務利用の拡大を図り、柿の消費量アップを目指します。

11.18 11.19 第 59 回大学祭「虹色祭」を開催

東生駒キャンパスにて、第 59 回大学祭「虹色祭」が開催されました。今年のテーマは「黎（レイ）」。「黎明」という言葉の夜明けの新しい 1 日が始まるイメージを今年の虹色祭への思いにかけました。

2 日間で約 4,000 人が来場した今年の虹色祭。賑わう会場を見て、「今年は 4 年ぶりの一般公開となったため来場者数の予測が難しかったが、来年の大学創立 60 周年に向けて大学祭を盛り上げていきたいと今年は官公庁にも声をかけた。生駒市や奈良市の消防局の方や自衛隊の方にも参加いただけたことも大きかったと思う。」と語るのは、大学祭実行委員会委員長の田島優生さん（経済経営学部 3 年）。中庭には模擬店が立ち並び、メインステージでは、ダンスパフォーマンスやよしもとお笑いライブ、クイズ大会など来場者も参加できるイベントが続きました。また、1 号館ではクラブや学部による展示や催しが、体育館では子ども向けに縁日が開かれるなど子どもから大人まで楽しめる充実の企画内容となり、会場の至る所で歓声があがっていました。最後は恒例の打ち上げ花火が虹色祭のフィナーレを飾り、第 59 回虹色祭は盛況のうちに閉幕となりました。

木刀を振り下ろすたびに歓声があがる

Bem-vindo ！／地球の裏からこんにちは！
ブラジル・アルモニア学園高校生との交流会を企画

7.5

グループワークの様子

ブラジル・アルモニア学園の高校生の来訪を受けて、高校生有志が交流会を企画しました。

河内拓人さん（高1）の英語による司会で始まった今回の交流会。ペドロ ホンモスさんが「日本語は難しいけれど今日はたくさん話して日本の文化を学びたい」と日本語で挨拶し、それに応えるように河内さんが代表挨拶で「この日をとても楽しみにしていた。スイカ割りなど日本の文化を感じてもらえる企画を考えたので、日本について知ってもらえると嬉しい」と述べました。

両校からの記念品の交換のあとは、親睦を深める企画がスタート。まず初めは、夏の日本でよく使われる「うちわ」を使って、お互いのことを知るグループワークが行われました。うちわの片面には、帝塚山高校の生徒によるイラストやメッセージがあらかじめ描かれており、その内容をきっかけに会話を重ねながら、アルモニア学園の生徒がもう片面を彩りました。また、アルモニア学園の生徒からは「ミサンガ」が贈られ、早速願いをこめて結ぶ姿も見られました。

続いて、日本の夏の風物詩「スイカ割り」や「椅子取りゲーム」を楽しみ、最後は、「世界に一つだけの花」をみんなで歌い、記念撮影をして笑顔で交流会を終えました。

「今回の交流会を企画した生徒は、今年の3月に国際交流プログラム、サンディエゴ・STEAMプログラム（女子）、ハワイ・サイエンスプログラム（男子）に参加している。この時は「迎え入れてもらう」立場だったが、今回「迎える側」の立場になることで学びの角度が変わり、新たな気づきにもつながっている。」と別所誠先生（国際交流委員会委員長）。中学校高等学校では、様々な国際交流プログラムを展開し、国際的視野に立って行動できる人材の育成に力を入れています。

徐々に減っていく椅子に着席できた喜びで盛り上がる

8.18 奈良県高校生議会に参加 県政策について提案

次世代を担う高校生が議員となって、知事や県議会議員等と意見交換をする「奈良県高校生議会」が開催され、本校からは社会科を通じて応募した１年生の上野真治さん、片木輝さん、勝村丞太朗さん、瀬尾直廉さん、関本心來さんが参加しました。

上野さんたちは、４月から奈良県の抱える課題についての様々な政策資料を読み解き、県政に対する理解を深め、議会での質問および提言の文書を作成。議会では、統計データ等を引用しながら、奈良県の観光政策や教育 ICT の推進について、山下知事や吉田教育長に質問し、答弁を頂きました。

また、県北部と南部の観光客数を比較すると４倍の開きがあることに着目し、「南部にも観光名所はあるが知らない人が多いので、動画配信や、県の観光大使を作って県として PR することが大切なのではないか」と奈良県観光大使による観光客増加政策を提言。議会後は、県議会議員の方との「意見交換会」も実施され、「若者の政治参加」をテーマに話し合いました。

県下の国公私立８校が参加した今回の奈良県高校生議会。議会を終えて、「自分たちとは違う分野の勉強をしている人の意見を聞く機会にもなり、様々な考え方に触れ、刺激になった」「知事や議員の方の答弁を聞くことで、問題に対する解決方法の考え方や新しいアイディアを実現していく政治の流れを実感した」「正しいデータを探し、活用する力が身についた」と振り返っていました。

8.3 奈良県代表として ICT 教育について発表

第８回関西教育 ICT 展で、澤田万結子さん（高２）が香芝高等学校の生徒と共に奈良県代表のパネリストとしてセミナーに登壇し、奈良県やそれぞれの学校の ICT 教育の取り組みについて発表しました。

澤田さんは、全校生徒にノートパソコン（Chromebook）が導入されたことで、表現方法の幅が格段に広がるとともに、模擬国連や ICT カンファレンスをはじめ学外でのさまざまな活動に積極的に参加できるようになったと報告。続いて参加した「奈良県スマホ学生フォーラム」では、大学生とのトークセッションで ICT に関するさまざまな視点での意見交換が大きな刺激になったことを紹介しました。

その後のディスカッションでは小中学生の ICT 利用に関する意見交換を行い、「スマホを利用する際のルールを一方的に押し付けるのではなく、子どもと相談したうえで決めるべき」と意見を述べていました。

7.10 医師として命にかかわることの怖さに向き合う

「医師は命を選ばないといけない場面に直面する。命にかかわることの怖さに向き合うこと。その覚悟を持てるのか考えるきっかけになれば」—。

医師を目指す生徒を対象にした「医学部一直線 集中セミナー」の一環で、７月 10 日、長崎大学医学部保健学科の遺伝教育プロジェクトを率いる森藤香奈子教授をお招きして、生命倫理について考えるワークショップを行いました。講座では、妊娠中の遺伝学的検査について学んだ後、新しい命を授かった父母の立場になって、出生前検査を模擬体験。机には、苺などの果物とそれぞれの週数の赤ちゃんの絵が描かれた両面パネルが置かれており、パネルをお腹に当てながら自分ならどう考えるか向き合いました。模擬体験後の発表では、「NIPT※で陽性と言われた後、羊水検査でもう一度陽性と言われることの精神的な辛さや流産するかもしれないという怖さを感じた」「自分は羊水検査を受けたいと思ったが、グループでは逆の意見もあり迷った。それでも自分は僅かな可能性に期待したい」といった意見が出るなど、出生前診断をする方の心情に寄り添うことの大切さや生命の尊厳について考えるきっかけとなり、生徒たちは医師への決意を新たにしていました。

※：無侵襲的出生前遺伝学的検査。妊娠 10 ～ 14 週の間に受けることができる出生前診断のひとつ。

AIを使って卒業研究のテーマについて掘り下げる

9.6
9.13

AIを正しく使いこなす力を身につけ、卒業研究の完成を目指す

ＣｈａｔＧＰＴなど生成ＡＩの普及が急速に進み、文部科学省が「初等中等教育段階における生成ＡＩの利用に関する暫定的なガイドライン」を示す等、その影響は教育にも及んでいます。生成ＡＩはその有用性から社会基盤の1つになると考えられます。本校でも、生成ＡＩの利活用も含めた情報活用能力の育成を目指しており、今年度から理科・情報の授業で長年取り組んできた卒業研究の調べ学習に、ＢｉｎｇＣｈａｔを活用しています。

ＢｉｎｇＣｈａｔを初めて利用する9月6日・13日の授業では、始めに、吉川澄人先生が、ＡＩの危険性について説明。ＡＩデータの情報源が、ネットに公開されている情報であるため、誤った回答が提示される場合があると知っておく必要があることを伝えました。ＡＩの回答に頼ると、自ら考える力や創造力を身につける機会をなくすだけでなく、誤った情報を信じてしまう危険性が残ります。ＡＩを正しく使うには、ＡＩから学んだり、ＡＩに書かせたりするのではなく、ＡＩと共に考えることやＡＩと自分の役割分担を考えて活用することが、大切であると説きました。そのようにしてＡＩを使いこなせる力が身につくよう、本校独自のプロンプト（指示文）を設定してＡＩを活用します。ＡＩに答えを提示させるのではなく、ＡＩに子どもたちをサポートさせ、調べ学習の個別最適化を図ります。

AIとの対話を重ねながら先生と相談

この日は、卒業研究のテーマを決め、ＡＩと共に研究レポートに取り組む最初の授業です。卒業研究は、自ら定めたテーマに関して、長い時間をかけ調べてまとめ上げるというものです。調べてみようと思うテーマをＢｉｎｇＣｈａｔに入力すると、掘り下げる内容例について、提案が返ってきます。その提案の内容を自身の力で調べて、テーマに関する周辺知識を増やし、さらに掘り下げて自分のテーマを見つけていきます。

ＢｉｎｇＣｈａｔを実際に使ってみて、「自分が想像していたこと以外の提案が沢山でてきたことに驚いた」と、ＡＩと一緒に考えることの楽しさと新たな気づきを得た子どもたち。ＡＩとの共同作業を通じて、ＡＩと人の正しいあり方について学びながら、集大成となる卒業研究の完成を目指します。

11.3

子どもたちによる子どもたちのイベント「TEZ'Fes2023」を開催

子どもたちが心待ちにしていたフェスティバル「TEZ'Fes2023」が開催されました。

和太鼓クラブの力強い演奏で始まった今年のフェスティバルは幼小合同開催となり、オープニングでの先生の合唱やスペシャルステージでは、歌にあわせ楽しそうに踊る園児たちも。会場となった運動場や体育館では、「ストラックアウト」や「サッカーストライク」、「恐竜迷路」など7つのゲームが催され、4年生がアンバサダーを務めました。また、5年生は学園農園で作った有機野菜を販売。元気な呼び声に誘われ、多くの方が野菜を購入されていました。

「自分だけが楽しむのではなく、約束やマナーを守り、みんなで楽しめる一日にしましょう」と野村校長先生が冒頭で挨拶されたように、どのコーナーでも一緒に担当する友達や参加者を気遣う子どもたちの姿が見られ、会場には歓声が響いていました。

9.12-15

今年から6年生も実施 国内留学で英語力をステップアップ

3～6年生対象に9月12日～15日、帝塚山大学・東生駒キャンパスで英語国内留学を行いました。

英語国内留学は、英語でゲームなどのアクティビティや、社会や算数、図工を学び、国内にいながら擬似留学を体験するというもの。普段接することが少ない英語圏の先生や英語圏以外の国籍で英語を話す先生とのコミュニケーションを通じて、実践的英語の確かなステップアップを図ります。今年の講師は、オーストラリア、イギリス、フィリピン、パキスタン、カナダ、ジャマイカ、インド国籍の在日外国人が担当しました。

講師の出身国クイズを交えた自己紹介から始まった3年生のプログラムでは、ジェスチャーを交えたダイナミックな先生のパフォーマンスに子どもたちは一気に引き込まれ、後の少人数に分かれたグループ授業では、子どもたちの元気な英語の声が廊下まで響いていました。「今日の経験から自分たちの英語が使えること、そして英語はツールだということを実感してもらえれば」と野村至弘校長。異文化理解とさらなる英語への学習意欲の向上が期待されます。

11.10
12.3

コーラス部が学外で活躍！ クリスマスイベント＆1万人の第九に参加

11月10日、JWマリオット・ホテル奈良のクリスマスイベントで、コーラス部がクリスマスソングを披露し、イベントを盛り上げました。ホテルを訪れた人たちは、子どもたちの清らかな歌声に立ち止まり、聞き入っていました。

また、12月3日には「サントリー1万人の第九」に、保護者と共に参加。年に1回、市民が大阪城ホールに集い、歌を通じて一つになる感動を体験するこのイベントに、コーラス部は令和元年から参加しており、コロナ禍による中止や動画での参加を経て、今年4年ぶりに大舞台に立ちました。部員たちは、本番にむけてプロの有元正人先生と羽根田操先生の指導も仰ぎながら、ドイツ語の歌詞の難しいパートを集中的に練習。他のパートの音をしっかり聞いて心を込めて歌うことや抑揚のつけ方など、合唱を上手に歌うコツを教えていただきました。

約70分ある「第九」は第一楽章から第三楽章はオーケストラによる演奏で、第四楽章からソリストと合唱が入ります。当日、子どもたちは、第四楽章を表情豊かに歌い上げ、1万人が一体となる感動を体験しました。

有元正人先生と羽根田操先生による練習風景

歌にあわせて肩たたき

9.12 「心のバリアフリー」で思いやりの心を育む

手話つきの歌「にじ」を披露

「雨ニモ負ケズ、風ニモ負ケズ…」。年長組園児の元気な声が、高齢者施設のホールに響きます。

9月12日、「心のバリアフリー」について学ぶ道徳教育の一つとして、こすもす組とたんぽぽ組の園児が、「スーパー・コートプレミアム奈良・学園前」を訪問しました。「心のバリアフリー」とは、様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うこと（「ユニバーサルデザイン2020行動計画（2017年2月ユニバーサルデザイン2020関係閣僚会議決定）」より）。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を機に社会全体で推進しており、幼稚園でも健やかな心の成長を目的に、「心のバリアフリー」に関する教育を充実させています。

この日の訪問に向けて、子どもたちは音読や歌の練習を重ねてきました。宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ、風ニモ負ケズ」を音読した後は、「ふるさと」や「にじ」の歌を披露。最初こそ少し緊張した面持ちでしたが、入居者の皆様の手拍子に支えられ、伸びやかな声でしっかり歌い上げました。続いて、一緒に手遊び「結んでひらいて」を楽しんだり、肩たたきをして交流を深めました。最後は、「元気でいてね」とメッセージを添えた手作りのメダルをプレゼント。入居者の皆様のあたたかい歓迎に、子どもたちにも屈託のない明るい笑顔があふれ、楽しい時間を過ごしました。

「ありがとうって言ってもらえて嬉しい」「緊張したけれど一緒に歌を歌ってもらって、楽しかった！」「年中さんも来年ぜひ行ってほしい」と、帰りのバスで訪問を振り返る子どもたち。初めての園外での発表、そして入居者の皆様との交流を通じて、心も一回り成長したようでした。

会話を楽しむ入居者の方と子どもたち

7.21 7.22 幼稚園生活初めてのお泊り保育 豊かな自然の中で自立心を培う

お友達と寝食を共にすることで自立心を培い、社会の一員としてのマナーを学ぶことを目的に、年長組を対象にお泊り保育を行いました。

お泊り保育は、赤膚焼体験、ヨットづくり、川遊び、キャンプファイヤーと盛りだくさんのプログラムを用意。まず初めの赤膚焼体験では、大塩昭山先生の工房を見学させていただき、湯飲み茶わんを作りました。そして、午後からは自然豊かな施設、アクトパル宇治へ。牛乳パックでヨットを作った後、「川の広場」でヨットを浮かべたり、友達と協力して沢蟹やカエルを探したりと、水辺の自然を満喫しました。お待ちかねのキャンプファイヤーでは、松明を手にした火の神様が降臨。火が灯ると、いよいよ宴が始まり、火の神様とのやり取りや歌の合唱、先生が考えたゲーム「トラとライオンどっちが強い？」で、子どもたちのテンションは最高潮に。天候にも恵まれ、楽しい夏の思い出の一つになりました。

翌朝は、「先生おはよう！気持ちのいい朝だね！」と明るい挨拶が聞こえるなど、家族と離れて一晩過ごす不安も乗り越え、少し成長した子どもたちの姿がみられました。

ヨットづくり

川遊び

赤膚焼体験

キャンプファイヤー

8.29 みんなでつくる夏の思い出。笑顔はじける「てづキッズまつり」！

夏の幼稚園の思い出にと育友会企画による「てづキッズまつり」が開催されました。

今年は、年少組から年長組の全園児が参加。子どもたちも、この日に向けて提灯やおみこしの飾りを準備して、とても楽しみにしていました。

お祭り会場に様変わりした教室や園庭では、お菓子釣りや宝探しなど工夫を凝らしたゲームに、流しそうめんやスイカ割り、児童福祉ボランティアサークル「どれみ♪」（大学・教育学部）による人形劇やダンスなどたくさんの催しがあり、「次はこれに行こう！」と子どもたちは大はしゃぎ。年中組・年長組の合同チーム対抗のおみこしリレーでは、「わっしょい！わっしょい！」という年少組応援団のエールが響くなか、少しでも早くゴールしようと奮闘していました。日が沈むと花火鑑賞もあり、噴水のように鮮やかな光が噴き出すたびに、歓声があがっていました。

10.27 年長組お米プロジェクト 稲刈りを行いました

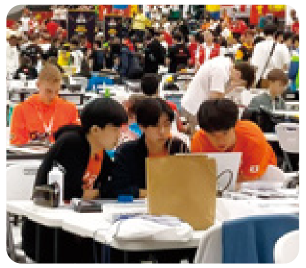
６月にみんなで田植えをした稲がずっしり実り、稲刈りを体験しました。子どもたちは稲刈りの鎌を使うのも初めてで、最初は「ちょっと怖い…」と不安な表情を浮かべていましたが、先生と一緒にザクザク刈っていくうちに、「いい音がする！」「楽しい」と満面の笑みに。収穫後の昼食タイムは、あぜ道にシートを敷いてみんなでおにぎりを食べ、子どもなりにお米ができるまでの過程やお米の大切さを実感していました。稲刈りの他にも焼き芋や田んぼリレー、お花摘みや生き物探しなど、秋の自然を満喫する盛りだくさんのプログラムが田んぼで繰り広げられ、楽しい一日を過ごしました。

AWARD

活躍する帝塚山生

夏以降、多くの大会や学外コンペティション、資格試験があり、帝塚山生が活躍しています

01 中高・理科部ロボット班 2つの国際大会で健闘！



11月7日～9日にパナマ共和国で開催された世界最大級の国際ロボット競技会「WRO（World Robot Olympiad）2023」に、高校3年生の税所直紀さん、佐伯健太朗さん、竹内柊平さん（チーム名：TezukayamaÅ（オングストローム））が、日本代表選手団の一員として出場しました。大会には世界75カ国・地域から440チームが集結。ロボミッションのシニアカテゴリ（高校生）には91チームが参加し、世界中の強豪がひしめく中、12位（シルバーメダル）という好成績を収めました。

行きの飛行機の機材トラブルで大会2日目からの参加となり、調整する時間もなく競技に参加することになりましたが、新しいルールが追加されるサプライズ競技でもパーフェクトに近い得点を獲得。事前の対応が極めて困難なChallenge Ruleで競い合う3日目は、粘り強く課題に取り組みました。

このほかにも、理科部ロボット班は、9月21日～24日にデンマークで開催された国際大会（WRO Friendship Invitational Tournament）に高校3年生の野間伶生さん、鵜木皓大さん、鵜木雄大さん（チーム名：TezukayamaNwU）が出場。世界各国から200を超えるチームが参加した本大会では、日本からは3チームが参加し、帝塚山チームはロボミッションのシニアカテゴリ（高校生）に日本代表として出場しました。試合当日にサプライズルールが追加されるなどの試練を乗り越え、総合13位（全41チーム）と健闘しました。

02 大使として国際問題を訴える—JEMUN（日本英語模擬国連）にて、Positive Impact Awardを受賞！

高校2年生の有志5名が、7月15日～17日「日本英語模擬国連（JEMUN）2023」（主催：近畿大学）に参加し、全国（海外含む）35の大学・高校（参加者350名）の中から3校に与えられたPositive Impact Awardを受賞しました。

模擬国連は、参加者が一国の大使となって国際問題を他国の大使と議論する活動で、国際問題に対する理解を促進する目的で行われており、リサーチ力やスピーチ力、ディスカッション能力、交渉力、合意形成力やリーダーシップなど総合的な能力が求められます。今年度の高校生は、WHO（世界保健機関）会議が舞台で、テーマはProtecting Vulnerable Groups from the Health Impacts of Extreme Heat（猛暑による健康への影響から弱者を守る）でした。井上さんたちは約3ヶ月という短い期間の中で準備を進め、本番では、それぞれの担当国の大使として素晴らしい力を発揮しました。最初は緊張で思うような討論ができずにいた様子でしたが、最終日には全員が笑顔で終えることができました。

（左から）伍々 和奏さん（カンボジア大使）、松宮 永華さん（エチオピア大使）、矢ヶ村 万莉さん（ウズベキスタン大使）、井上 稟子さん（ギリシャ大使）、小林 潤良々さん（ラオス大使）

03 小学校・WRO Japan 2023 奈良県大会で優勝！

希望者を対象に実施しているロボット教室の参加者が7月29日・30日に開催されたWRO Japan 2023奈良県大会に出場。5年生の松本啓志さんと森亜希さんのチームがエキスパート部門で優勝し、全国大会に出場しました。奈良県大会には、4年生もミドル部門に参加し、3位及び審査員特別賞に入賞しました。奈良県大会の結果は、以下のとおり。

◆エキスパート部門

優勝／松本 啓志　森 亜希

◆ミドル部門

3位／金井 啓悟　西原 悠進　鈴木 小春

審査員特別賞／魚谷 龍門　李 佳音

04 大学・居住空間デザイン学科 4年連続で京都デザイン賞受賞！

（公社）京都デザイン協会主催の「京都デザイン賞2023」において、現代生活学部居住空間デザイン学科の学生及び教員が受賞しました。京都デザイン賞は、京都の伝統と文化を守りながら新たなデザイン手法を用いて、新しい京都のデザインの創出を目的に作品を公募するデザインコンペティションです。学生たちは、大里浩二教授（専門：グラフィックデザイン）と深谷友貴准教授（専門：プロダクトデザイン）の指導の下、夏休み期間にアイデア出しからスケッチ、試作の繰り返しを経て、コンペティションに挑みました。

◆グラフィックデザイン・パッケージデザイン部門

課題① 伏見の清酒「都鶴」ラベル・パッケージデザイン

伏見の清酒・都鶴賞／藤本 愛美（2年）

入選／小笠原 千恵（3年）

課題③ 新しい京の和文具デザイン

新しい京の和文具賞　松田 沙耶（4年）

◆プロダクトデザイン・クラフト・雑貨デザイン部門

入選／深谷 友貴准教授

05 中学校・高校推奨資格 実用英語検定試験

【2023年度第1回 実用英語検定試験合格者】

●高　校／準1級合格　小川 真央

●中学校／2級合格　安 悠那　中山 由結　飯岡 一輝　河上 加奈　杉田 絵里奈　樋口 蘭

06 奈良県中学校英語スピーチ・レシテーションコンテスト 弁論の部優勝、暗唱の部2位

9月22日に、奈良県中学校英語スピーチ・レシテーションコンテストが開催され、英語部の星野みずきさん（中3）と玉村茜加理さん（中3）が出場し、暗唱の部で玉村さんが2位、弁論の部で星野さんが優勝。星野さんは11月23日に開催された高円宮杯第75回全日本中学校英語弁論大会に奈良県代表として出場しました。

暗唱の部に出場した玉村さんは、英語の教科書から「Tommy's Pot of Gold」を選択。7月から練習を重ね、惜しくも優勝は逃しましたが、初出場で2位という結果を出しました。

弁論の部に出場した星野さんのテーマは、「Do we need to learn foreign languages?」。ケニアの女性環境活動家が「もったいない」という日本独自の言葉を使ったことで、世界の人々の環境への意識が変わったということや、英語を学ぶ中で「Good morning」という言葉に相手の幸せを願う意味があることを知り、言語の奥深さを実感したという自身の経験を例に挙げ、外国語を学ぶことの大切さを熱弁しました。

昨年、同大会で先輩が優勝したことに刺激を受けて、出場を決めたという2人。大会を振り返り、「ネイティブなみの発音で英語を話す人もおり、発音をもっと改善したい。」と英語力の更なる向上に意欲を見せていました。

07 中高・数学研究部「パソコン甲子園2023」プログラミング部門本選に6年ぶりに出場！

「パソコン甲子園2023」プログラミング部門で、数学研究部の西山遼さん（高3）と辻本穂波さん（高2）のチームが予選を突破し、6年ぶりに本選に出場しました。「パソコン甲子園」は、コンピュータ理工学を専門とする会津大学等が主催するもので、プログラミング部門は、全国の高校生、高等専門学校生等が、制限時間内に出題された課題を満たすプログラムの実装を競い合う競技プログラミングの大会です。今年本選に進んだのは、全国の508チームのうち30チームと狭き門となっています。

11月11日の本選では、制限時間の4時間で13個の課題にチャレンジ。2人で担当する問題を分担し、貪欲法等様々なアルゴリズムを駆使して、難問に根気よく向き合いました。大会を振り返り、「本選は強豪校ばかりで緊張したが、他のチームの様子を垣間見ることができ、良い刺激になった。」と語る辻本さん。次は年明けに開催される日本情報オリンピックの本選に照準を定めていました。

今大会が高校生活最後の大きな大会となった西山さんは、「大学でも情報系に進み、大学生対象の大会に出場できるよう、これからもプログラミングの技術を向上させたい」と意気込みを語ってくれました。

このほかにも多くの学生・生徒・児童が活躍しています。各学校HPで随時情報を発信していますので、ぜひご覧ください。

帝塚山学園同窓会
（中学校高等学校同窓会）

令和５年９月３日

令和５年度総会・懇親会を開催しました

同窓会総会・懇親会が大阪市のシェラトン都ホテル大阪で開催されました。総会では、提案された議案は全て承認されました。また、第 12 代会長の綿谷基氏が勇退され、36 期生の玉井政弘氏が第 13 代会長に選出されました。

総会に続き開催された懇親会には、3 期生から 75 期生まで約 140 名の卒業生が参加。そしてお招きした 9 名の来賓が花を添えてくださいました。

冒頭、綿谷基前会長と玉井政弘新会長の挨拶に続いて冨岡将人理事長からご祝辞を頂き、帝塚山ファミリーの絆の深まりを再確認するとともに、卒業生の今後のさらなる結束を誓いました。また、理科部の八尋博士顧問からロボット班が日本代表としてデンマークで開催される国際大会に出場すると報告がありました。

今回は米寿を迎えられた 8 期生（1 名）、傘寿を迎えられた 16 期生（15 名）、喜寿を迎えられた 19 期生（2 名）にお祝いの品が贈られました。

今年度より中学校高等学校の校長に就任された小林健様に乾杯のご発声を頂き、いよいよ懇親会がスタートしました。プロミュージシャンのピアニストの上條みずほさん（46 期生）、サックス奏者の大川平徳子さん（50 期生）が奏でる音楽で場を素敵な雰囲気に演出くださいました。

目玉企画である「お楽しみビンゴゲーム」は、軽妙な司会のもとに進められました。多くの卒業生が協賛し提供頂いた豪華景品が多数用意され、番号が読み上げられるたびにビンゴカードを持つ手に力が入ります。見事一番にビンゴとなった参加者には商品券が授与されました。多くの景品が参加者の手元に届き、これでゲーム終了かと思えば豪華景品が待つ敗者復活というありがたい延長戦も行われ、盛り上がりは最高潮に達しました。

終盤では帝塚山学園校歌、そして祝歌「茜雲」を参加者全員で斉唱しました。最後に松岡正格常務理事から閉会の挨拶がされ終宴となりましたが、世代や学年を越え、旧交を温めあう姿は心温まるものでした。

全員で校歌斉唱の場面

冨岡理事長の祝辞

新会長の玉井氏挨拶

わかみどり会
（大学同窓会）

令和５年９月10日

「第 56 回わかみどり会」秋の懇親会を開催

台風が過ぎたあとの晴れた秋空のもと、帝塚山大学同窓会の懇親会が、JW マリオット・ホテル奈良にて開催されました。

奥村由美子学長先生はじめ、10 名の先生方と、73 名の同窓生の方々がお集まり下さいました。こんなに大勢の集まりは、どなたも久しぶりだったのではないでしょうか。思えば随分長い間、私たちはマスクを外さずに過ごし、会食を控えてきました。お互いを気遣い合うためのマナーはすっかり習慣になりましたが、表情を読み取れないもどかしさに苦労を感じる日々が長く続きましたね。

今回、しっかりとお顔を拝見しながらお話しできることの有り難さを心から感じました。どなたのお顔も晴れやかに、同じ苦労を経験したもの同志の労わりに溢れていました。表情が読み取れることで一気に親近感が増し、自然とあちこちに笑顔の花が咲く。そんな待ちに待った懇親会が実現できたことに、皆様喜んでいらっしゃるようでした。

まず同窓会会長と学長先生という華やかなお二人のスピーチで会場の雰囲気もあっという間に温まり、また先生方もニコニコと優しい笑顔で気さくに話して下さるので、同窓生の方々も安心して打ち解けておられました。

古希を迎えた方々は、開催されなかった 3 年分の方々も交えてのお祝いとなりました。壇上に溢れそうなほどの人数で祝福されたことはきっと、忘れ難い、いい思い出になるでしょう。私たちも、例年にない壮観な眺めに思わず笑みがこぼれました。とても素敵なひと時でした。

つながる・ひろがる 教育連携

Close UP

幼稚園キンダーカウンセリング事業 大学×幼稚園

幼児期の子どもの発達スピードには個人差があり、発達状態にあわせた柔軟な対応が求められています。幼稚園と大学は、昨年度より幼稚園キンダーカウンセリング事業に関する連携協定を締結し、様々な子育て支援を行っています。

９月５日・11 月９日に、心理学部・心理科学研究科の式部陽子准教授（写真左）による、子どもとの接し方やかかわり方を学ぶ子育て支援講座を開催し、約 15 名の幼稚園の保護者が参加しました。「ほめる＆環境を整える」、「子どもに伝わりやすい指示」をテーマとした今年度の講座では、「ペアレント・トレーニング」の考え方をベースに、子育てでよくある場面を例に挙げ、日々の子どもとのかかわり方を思い出していただきながら、子どもを褒める時にはできるだけ具体的な言葉を選ぶことや子どもの興味ややる気を引き出すような声掛けをすることの大切さについて、専門的知見を交えながら説明されました。また、ペアワークで母親役と子ども役になって折り紙によるコミュニケーションを体験していただくなど、実践的プログラムを通じて、子どもとかかわる時の目のむけ方や褒め方のコツを体感していただきました。

帝塚山大学・帝塚山幼稚園キンダーカウンセリング事業

専門教員による幼稚園の先生方へのコンサルテーション

月１回、子どもの発達支援を専門とする教員が幼稚園を訪問。午前に保育の様子を観察し、午後から幼稚園の先生方とカンファレンスを行っています。幼稚園で子どもたちが過ごしやすい環境を整えることや、お子さまたちの成長発達を促す声かけやかかわりについて、具体的支援を行っています。

保護者へのカウンセリング

保護者からのご希望等にあわせて、適時、専門教員による個別の面談を行っています。幼稚園でのお子さまの様子をふまえ、ご家庭での子育てのお悩みを聴きながら、お子さまの理解やかかわり方について話し合っています。

保護者向け講座の開催

子どもの発達支援を専門とする教員による保護者向けの子育て支援講座を開催しています。

大学院心理科学研究科臨床心理学専修の大学院生の発達検査実習への協力

大学院生の発達検査実習への協力園児を募集し、お子さまの発達の状態を保護者・幼稚園の先生方と共有しています。

詳細な検査を希望される場合には、こころのケアセンターをご紹介しています。

注目の活動

高校×幼稚園 あいうべ体操を応用したかるた『あにまるべー』で小児睡眠時無呼吸症候群を予防

高校２年生の福田明日那さん、保木真理さん、山﨑叶愛さん、山本芽依さんが、中高生の視点からヘルスケア領域の課題解決を目指すプログラム「inochi Gakusei Innovators' Program」に参加し、睡眠時無呼吸症候群（以下、SAS）で苦しむ人を減らすための課題解決に取り組んでいます。

福田さんたちは、口呼吸によりアデノイドという喉の奥のリンパ節が肥大することが原因となる小児 SAS について特に注目。医師へのインタビューを重ね、口呼吸を改善する口の筋肉のトレーニングが小児 SAS の予防になることを知りました。また、保護者インタビューで、小児 SAS の治療として主流である切除手術は、子どもへの負担が大きいためできるだけ避けたいとの声を聞き、無症状・軽症の子どもには予防改善が大切であると、口呼吸を改善する「あいうべ体操」に着目。実際に 3 歳～5 歳の子ども 10 人に 1 週間「あいうべ体操」を行っていただいた結果、子どもが継続して行うのは難しいことがわかり、楽しく遊べるよう「あいうべ体操」を応用したかるた「あにまるべー」を考案しました。

10 月 20 日には、帝塚山幼稚園協力のもと「あにまるべー」を使った実証実験を行い、年長児 12 人に手作りのかるたで遊んでいただきました。初めて体験するルールのかるた遊びに最初は苦戦するも徐々に盛り上がり、最後にはかるたがボロボロになるほど白熱。「あいうべ」と楽しそうな声が教室に響いていました。

この他にも、「あにまるべー」を子どもの遊びのコンテンツとして全国に発信することができないかと、協力していただける保育所・保育士向けのサイトや雑誌を探し、かるたの無料ダウンロード方法等発信の工夫を重ねています。これらの取組みは、12 月 3 日に「inochi WAKAZO Forum 2023（全国大会）」でプレゼンし、見事、オーディエンス賞を受賞しました。

「ライオンのうー」と読むと、「うー」と言いながらライオンの口の形が「う」になっているカードを探します。お手つきをすると、みんなで「あいうべ」と言うルールになっています。

Information

西山厚大学客員教授 秋の叙勲・瑞宝双光章の栄誉

11月3日、令和5年秋の叙勲受章者の発表があり、帝塚山大学客員教授（元文学部教授）の西山厚先生が瑞宝双光章を受章されました。

西山先生は、京都大学大学院文学研究科国史学専攻博士課程修了後、奈良国立博物館で学芸部長などを歴任。平成26年度から文学部教授として帝塚山大学に着任いただき、奈良の宗教文化や奈良学について、これまでの研究活動で深められた知見を活かし学生に指導いただきました。平成31年度からは、客員教授として、奈良と仏教について日本の歴史や思想、文学、美術など多様な観点からアプローチした講座を担当いただくほか、東アジア仏教文化研究所代表を務められています。これまでの教育研究活動が認められ受章されたこと、心よりお祝いを申しあげ、今後一層のご健勝とご活躍を祈念申しあげます。

野村至弘小学校長が文部科学大臣から感謝状を贈呈されました

野村至弘小学校長が、これまでの小学校教育の振興に尽力した功績を高く評価され、10月19日に開催された「全国連合小学校長会75周年記念式典」において、文部科学大臣から感謝状等を贈呈されました。

野村校長は、大阪教育大学教育学部卒業後、昭和59年4月から帝塚山小学校に勤務。平成26年4月に教頭就任、平成31年4月に校長に就任し、帝塚山教育を推進していただいています。また、平成18年度から平成23年度までは、西日本私立小学校連合会代表委員を務め、令和4年度からは、同連合会指導員を務めるなど、小学校教育の振興に尽力されています。

未来の管理栄養士によるレシピ紹介　今日の一皿

1人前
211kcal

鱈と野菜のオイスター炒め

材料（2人分）

鱈（2切れ）……………………… 200g
酒……………………… 小さじ2（10g）
薄力粉…………………… 小さじ2（6g）

小松菜…………… 1/2パック（100g）
にんじん ………………… 1/2本（80g）
玉ねぎ……………… 中1/3個（70g）
油……………………… 小さじ2（8g）

揚げ油………………………… 適量
春雨（乾）……………………… 20g
にんにく ……………小1/2かけ（3g）
唐辛子（乾）………… 小1/2本（0.1g）

★
- オイスターソース …大さじ1弱（14g）
- 酒 ……………大さじ1/2弱（7g）
- 濃口しょうゆ…… 小さじ2/3（4g）
- 砂糖 …………… 小さじ2/3（2g）
- 水 …………… 大さじ2強（40g）

作り方

①春雨を180度の油で揚げる。
②小松菜、にんじん、玉ねぎを食べやすい大きさに切る。にんにくはみじん切りにする。
③鱈は3つに切り、酒をかけ10分おき、薄力粉をまぶして180度の油で揚げる。
④フライパンに油、にんにく、唐辛子を入れ香りが出るまで炒め、玉ねぎ、にんじん、小松菜の茎を入れる。全体に火が通ったら小松菜の葉と★を加え、炒め合わせる。
⑤器に①をのせ、上に③を盛り付け、④をかけて完成。

POINT 春雨、鱈はカリッと揚げる。野菜は炒めるときパサパサにならないように、水分を調節し鱈に野菜あんをかけるように仕上げる。

〈オイスターソースとは〉

牡蠣を茹でた煮汁を濃縮して砂糖や塩、カラメルなどを加えて作る中国広東省が発祥の調味料です。主原料である牡蠣は、海のミルクと呼ばれていてミネラル成分が豊富です。また、他のソースよりもカロリーが低く、旨味が強いので塩分控えめでも料理をおいしく仕上げることができます。中国料理には欠かせない調味料ですが、実は和食の出汁の代わりに使用したり、カレーライスとも相性が良い万能調味料なのです。今回の炒め物はオイスターソースを使用することによって、野菜の旨みとコクを引き出し中華風に仕上げています。

このメニューは、11月22日の給食経営管理実習で作ったメニューの一つです。給食経営管理実習は、現代生活学部食物栄養学科（管理栄養士養成課程）の実習の一つで、衛生管理が徹底した設備環境で、管理栄養士、栄養士、調理師、調理員の役割を実践し、給食の現場における流れを理解するもの。

管理栄養士を目指して、頑張っています！

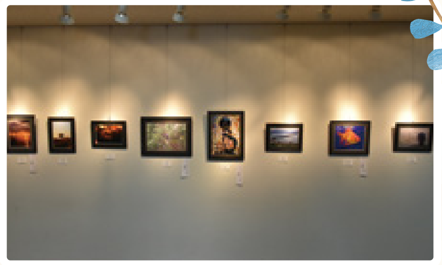
「学園前アートフェスタ2023 つながる学園前 ～地元作家展と小さな音楽祭～」に参加

11月18日から25日、学園前エリアの街育イベント「学園前アートフェスタ2023～地元作家展と小さな音楽祭～」（主催：学園前街育プロジェクト実行委員会※）が開催されました。今年のテーマは、「つながる学園前」。奈良西ロータリークラブによる関連イベント「つながるパフォーマンス」も同時開催され、学園からは、帝塚山学園ギターマンドリンクラブと中高写真部が参加しました。会場となった学園前キャンパス18号館では、地域の子ども会の児童を対象にしたワークショップが8月27日・11月12日に行われ、その作品がTezukayama Cafeや中庭に展示されました。また、杉村仁氏をはじめとする地元作家の作品や、昨年好評を博した地元の方のグラスアート作品、奈良市立一条高等学校絵画部の作品が展示され、多くの人が足を運んでいました。

※構成団体：学園南地域自治協議会／（学）帝塚山学園／㈱淺沼組／（公財）大和文華館／（公財）中野美術館／西部公民館（（公財）奈良市生涯学習財団）／GALLERY GM-1／奈良地域デザイン研究所

オープニングセレモニーで演奏をするギターマンドリンクラブ。「音楽で世界一周」をテーマに、「コンドルは飛んで行く」ほか数曲を披露。情感たっぷりの美しい音色がホールに響き渡っていました。

地元作家の作品



西部公民館5階に展示された中高写真部の作品。写真コンテスト受賞作品を中心に、23点が展示されました。

グラスアート作品

一条高校絵画部有志の作品

こどもワークショップ作品。教育学部の学生も運営補助のボランティアで参加しました。

中学校・高等学校に二層式洗濯機を寄贈いただきました

（株式会社南都銀行様、株式会社ヘルシーエイジング様 寄贈）

株式会社南都銀行様と株式会社ヘルシーエイジング様より、帝塚山中学校・高等学校に二層式洗濯機2台を寄贈いただき、9月6日、寄贈式を行いました。

今回の寄贈は、SDGsの普及拡大と地域の社会的課題解決に向けた南都銀行様の取り組みに賛同されたヘルシーエイジング様が、「ナントSDGs私募債」を発行されたことによるものです。寄贈された二層式洗濯機は、中学校高等学校の部活動ほか様々な行事で大切に活用させていただきます。株式会社ヘルシーエイジング 代表取締役 小西由紀様はじめ関係者の皆様に厚く御礼申しあげます。

（左から）株式会社南都銀行 西大寺支店支店長 曽根宏之様、株式会社ヘルシーエイジング 代表取締役 小西由紀様、帝塚山中学校高等学校 小林健校長、帝塚山中学校高等学校 屋山俊幸事務長

「T-time」（第16号）表紙

卒業生・保護者からの贈り物
日々の学びや学園生活を支えてくださり、ありがとうございます。

吉野杉のベンチ（小学校第65期卒業生一同）〈写真Ⓐ〉
水槽（小学校第63回卒業生一同）〈写真Ⓑ〉
図書（帝塚山学園同窓会）〈写真Ⓒ〉
姿見鏡（中学校高等学校第66期卒業生一同）〈写真Ⓓ〉
記念樹（幼稚園育友会）〈写真Ⓔ〉
ベンチ（中学校第36回卒業生一同）〈写真Ⓕ〉
和太鼓（創立50周年記念　帝塚山小学校同窓会）〈写真Ⓖ〉
学園講堂緞帳（帝塚山学園同窓会・帝塚山学園教育振興会）〈写真Ⓗ〉
グランドピアノ（帝塚山大学開学40周年記念　帝塚山大学同窓会）〈写真Ⓘ〉
壁時計（幼稚園平成15年度卒園児一同）〈写真Ⓙ〉
テント（小学校第57期卒業生一同、帝塚山短期大学同窓会、
幼稚園育友会、小学校育友会）〈写真Ⓚ〉
クリスマスツリー（幼稚園小学校育友会）〈写真Ⓛ〉

「T-time」を
スマートフォンで！

スマートフォンなどでも、
本誌をお楽しみください。

【編集・発行】帝塚山学園　本部事務局教育連携課　〒631-0034 奈良市学園南三丁目1番3号　Tel：0742-41-4750 / Fax：0742-48-9894

学校法人帝塚山学園
Tezukayama Gakuen